

65. 「子どもへの愛情は裏切ることがありません。」

2016.1.1 遠藤清賢

私たちは親として自分はこんなにも子どもに愛情を注いでいるのだから、何かの見返りがきつとあるかもしれないと思うことがあるかもしれませんが、愛するという行為に報いを求めることは真実に愛するという行為から外れてしまっているのです。愛することに報いを求めることは愛情ではありません。自分にとって何かの有益なことがあるから私たちは人を愛するのではなく、私たちは愛したいという心の衝動に満たされて子どもたちを愛しています。愛された結果がどうなのかというようなことは普通考えていません。授かった命を慈しみ大切に育てたいという思いは私たちの中に自然と備わっている尊い心です。この親の愛情によって育てられた子どもは大きな困難に遭遇してもそれを乗り越え逞しく生きることができます。これらの愛情の積み重ねによって子供たちは逞しく自立して成長するのです。その積み重なった愛情が子ども達に生きる力を増し加えます。愛された子どもたちは逞しく、そして優しく、愛されたように、自分も他者の命を慈しみ大切にできる人間として育つのです。

私たちも親の愛情によって育てられ今の自分が有るのです。愛情を注ぐことで自分自身も生きる活力が生み出されていることに気付くのです。愛するという行為は目には見えませんが、その愛によって命が生まれ、愛された人たちと同じく愛を実践した者たちにも新しい希望が生まれ、生きる力が湧きあがってくるのです。愛することによって生きる力が生まれ希望が湧きあがってくるのです。愛する行為は決して無駄な行為ではないのです。その結果はいつ現れるのかはわかりませんが、愛の行為を行ったものが死んでしまった後にその愛の結果が現れることも有るのです。どのような形で愛情の結果が出てくるのか知ることは出来ないかもしれませんが、しかし、私たちはそのようなことを考えながら子ども達に愛情を注いでいる訳ではないはずで、何も考えず子ども達に愛情を注いでいます。子どもたちが、それぞれの親からの愛情を受け、大人になった時、自分が愛されて、生かされて、支えられたことに気付くのです。愛情は命の誕生と同様に継続されます。命は愛情によって生み出され愛情によって育まれるのです。私たちが生きているという事実は愛情によって継承され存在するのです。私たちは新しい命を持って生まれてきた子どもたちを、古代から連綿と続いている命の愛情に、さらに自分の思いを込め、子ども達に伝えているのです。その愛情は決して裏切ることはありません。その愛情を受け取った人も、多くの愛情を注いだ人もお互いに、命を支える働きを実践し行動しているのです。



菜の花の和え物《材料》4人分

菜の花 50g、ホウレン草 50g
しらす干し 大さじ3、
にんじん 20g (2cm程度)
ホールコーン 小さじ2
醤油 少々

《作り方》

1. 菜の花とほうれん草は茹でて食べやすく切る。
2. にんじんは短冊切りにして茹でる。
3. しらすはさっと湯通しする。
4. それぞれの水気をきってコーンと混ぜ、醤油で和える。



奥州市江刺区男石1丁目3-5 社会福祉法人 江刺保育園 子育て支援事業

電話 0197-35-1522 ファックス 0197-35-1741

子育て広場「友遊広場」専用電話 090-7327-9686

Eメール esahoiku@pup.waiwai-net.ne.jp ホームページ <http://www.esashihoikuen.com/>